

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人 あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら	ユニット名	2号棟
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北15245-2		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年2月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族や利用者様(入居者様)より今までの暮らし方等の情報を聞き、家事等の習慣を続けたり、活動のきっかけにつながる事で、自発性を高め心身の活動化につながるよう日々のケアに取り組んでおります。去年まではコロナ禍の中でもドライブなどをとって四季を身近に感じ楽しみがもてるよう努力しました。現在では、コロナも5類等になり少しずつですが、ご家族との面会や外出等を少人数で行いながら楽しみをもてるよう努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは「笑顔いっぱい大家族」という理念のもと職員は利用者には不快感を与えないようプライバシーを尊重したケアに取り組んでいる。自治会に加入しており地域との関わりも多く近隣の神社の行事や棟上げにも利用者に参加するなどしている。医療においても訪問看護や協力病院との連携が図られ適切な医療が受けられる体制作りが出来ている。入浴においても機械浴が導入されているため全ての利用者が湯船につかり入浴を楽しむことが出来る。職員間にはコミュニケーションが図られ利用者は穏やかに過ごされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議などの場において確認を行い意識づけをし実践につながるよう努めている。又、職員が常に目に入る所に掲示し確認を行っている。		「笑顔いっぱい大家族」の理念のもと職員が常に目に届くところに掲示し職員会議でも意識付けを行いながら理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はコロナ禍もあったので減少している。自治会の加入は継続し、職員が代表で行事などには参加している。行事などを通じて事業所を認知してもらい、理解や協力につながるよう努めている。		自治会に加入し回覧板を利用者と一緒に持って行ったり地域のイベントや近隣の棟上げ、神社の行事にも参加するなど日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが、地域の人々に向け、サロン会などを再開し交流の場がもてるようにしている。電話相談などでも対応できるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況や取り組みの報告を行い、そこで得た意見をサービスに活かせるよう努めている。		感染対策として行わなかった時期は報告書を役場と家族に送付している。家族や職員から施設入り口の舗装の要望があり対処し意見がサービスの向上に活かされるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議等への出席などを通じてサービスの取り組みなどへの相談を行い、協力関係を得るための交流をもつことができている。		管理者は役場には直接訪問したり随時の電話連絡などで職員配置や転倒事故などの相談を行い日常的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を通じて理解を深め、常に身体拘束にならないか？と疑問をもち、職員間で声かけを行いながらケアに努めている。		外部の研修会にはWeb等で参加している。ホーム内での研修も行い会議の中で周知を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で勉強会を実施し、繰り返し学んでいくことで全職員の意識向上と理解に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名金銭管理にて町社会福祉協議会の安心サポートを利用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族へわかりやすい言葉で説明を行い、理解と同意を得てから契約を交わしている。変更などがあつた場合でも同様にその都度、説明を行い納得を得てから追加契約を実施している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて利用者様、ご家族、行政の代表の方より要望や意見があれば運営に反映できるよう努めている。		家族からの意見を聞き出せるような雰囲気作りに努め面会時に意見を聞き出している。家族と外食や理美容に行くなど家族や利用者の意見が反映できる取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際に話し合いを持ち希望や提案を頂いている。又、随時、職員の声に耳を傾け改善につなげている。		運営者に対し職員からの待遇面についての要望があるものの改善されていない。	人員不足にも繋がっており早急に対応されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を考え向上心を持って働けるよう、個々の努力や勤務状況等を把握しながら条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量やケアの実際を把握し段階的に応じた法人内外の研修参加に働きかけ、職員の育成を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修等の機会が減り、研修参加方法も変化している中で、情報交換につながるよう工夫し、取り組める様になっている。同業者の研修等にも参加し意見を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問して頂き、施設内の雰囲気等を直接見てもらう事で安心してもらえるよう努めている。又、必要に応じてご自宅を訪問し不安や要望に傾聴しながら信頼関係を築いていける取り組みを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望などをお聞きし、相談にのれるように努めている。ご家族の意見に傾聴し、信頼関係ができる取り組みを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問やホームに来て頂く機会を設け、本人やご家族の抱える不安を傾聴し、本人本位の支援につながるための話し合いを行い、取り組みに活かせる様努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす家族という意識を持ち、その時々 の思いや今までの習慣を尊重して、お互い が支え合えるような関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の以前の暮らしや思い、要望をお聞きして共に本人を支えていく関係づくりを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどでご自宅付近まで出かけたり、状況に合わせ本人やご家族の希望に応じ、その都度対応を行っている。	家族での外出や墓参りにも出かけている。買い物に出かけたり神社や桜島大根を取りに出かけるなど馴染みの場や人との関係継続の支援が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がお互い理解し合えるよう職員が間に入り、楽しく会話などができる場を提供して孤独にならないよう配慮に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関に転所されても電話で様子伺いを行い、面会などの機会をもつようにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の状態や表情から思い、意向を汲み取り本人の立場に立って考えるような支援に努めている。	日々の表情や状態から意向を汲み取っている。言葉掛けには十分に気を付け本人の立場になって考えながら取り組みに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や趣味など本人やご家族からもお聞きし、言動の理解や対応につながるヒントになるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から本人の思いを共感しさりげない支援を行っている。又、記録をとおして職員間で共有し現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向をふまえながら、月1回の職員会議で職員間での話し合いを行い、ケアの在り方を検討している。そこで得た意見や具体的な支援方法を介護計画書に活かしている。	担当者が毎月モニタリングを行い職員会議にて話し合いを行っている。2~3ヶ月毎に見直しを行い状態変化の場合にはその都度見直し現状に即した介護計画が作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや記録を詳細に残す様に努め、情報の共有とケアの振り返りを行い、介護計画作成の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて、出来る限り柔軟な支援やサービスの取り組みを行っている。			

宮崎県都農町 グループホーム「あおぞら」(2号棟)

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロン会の中止やボランティア等の受け入れが減少した現状であったが、少しずつ受け入れを再開し、楽しみの場がもてるよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望されたかかりつけ医を定期的に受診し、医療相談もスムーズに行っている。緊急時の受け入れ対応も可能で、医療を受けることができる支援を行っている。	それぞれのかかりつけ医へ職員が情報提供書を作成し家族対応で行っている。車椅子の利用者、精神科への受診は職員で対応している。また訪問看護とも連携し適切な医療が受けられる支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態の変化に気付けるよう観察を行い、訪問看護への報告、相談を行っている事で、早期受診の判断ができています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との情報交換や調整を行い、連携を図ることができています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人に寄り添い、ご家族の思いも含め尊重している。主治医の協力や終末期の在り方について職員、訪問看護ステーションのスタッフを含め話し合いを行い、支援に努めている。	入居時に説明を行い随時話し合いの場を持つようにしている。訪問看護や協力医療機関との連携も図り職員間でも話し合いを持ちながら重度化や終末期のあり方についての支援の構築に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得ながら勉強会を実施している。事故や急変時には事故報告書や介護記録をもとに事例検討会を行なっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を昼夜問わず実施しており、ご家族や地域の方の協力に努めている。	年2回の定期的な避難訓練を行っている。緊急時の連絡体制も整えており、地元消防団や民生委員、家族とも連絡をとりながら協力関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、プライバシーに配慮した声かけ等を行い、不快感を与えない対応を心掛けている。		プライバシーや声掛けには十分に気を付けている。排泄時や入浴時にも十分配慮し不快感を与えないような対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け聞く姿勢に努めている。おぼん拭きなど自発的行動ができるようさりげなく準備を行い、自己決定しやすい声かけなどにも配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし方ができるよう、一人ひとりのペースを大切に柔軟に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみへの関心を持ち続ける事ができるよう支援を行っている。又、洗面台には手の届く範囲に櫛などを準備し、いつでも使用できるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできる範囲内で後片付けや食器洗いを一緒にできる支援を行っている。中には積極的におぼん拭きを行われる方もいらっしゃる。		野菜を切るなど出来ることは利用者とともにやっている。献立はあるが利用者の希望で焼き肉にしたり随時変更している。干し柿作りや栗の料理を行うなど食事を楽しむ支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を工夫したり、食事、水分量などを把握しながら栄養面での支援を行っている。食事の摂取量や水分の摂取量も記録に残している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後さりげない声かけを行い口腔ケアを自発的に行えるよう努めている。入れ歯洗浄剤を使用し洗浄消毒の支援も行っている。			

宮崎県都農町 グループホーム「あおぞら」(2号棟)

自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを周知し、失敗がないよう声かけ誘導を行っている。排泄状況が確認できる表を使用し個々にあった支援をしている。		排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握を行い日中トイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを利用することもあるが排泄の自立支援に向けた取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動など個々に応じた予防に取り組み、自然排便につながるよう努めている。又、食物繊維なども取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調などを把握し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせ入浴を実施している。入浴拒否の方でも声かけや時間をずらす等し、工夫を取り入れている。		午後から週2～3回の入浴にはなるが機械浴で一人ひとり湯船につかり入浴を楽しんでいる。拒否の患者にはタイミングを合わせるなど工夫を行い、入浴剤や季節に応じたゆず湯など入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して眠ることができるよう、時間や状況に応じて支援を行っている。又、季節に合わせて掛布団の調整等も行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し用法や用量について看護職を中心に職員は理解している。状態の変化があれば訪問看護や主治医に報告、相談を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大事にし楽しみ事や気分転換ができるよう支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域へのドライブや園庭散歩の機会を設けている。ご家族の協力で自宅に戻られて少人数での食事をされる方もいらっしゃる。		利用者はホームの周囲を散歩したりデッキに出て日光浴を行ったりしている。自宅近くまでのドライブに出かけたり近隣のコンビニに行こうとする利用者を見守ったりと日常的な外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	2号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買い物については、本人、ご家族と相談の上決めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればいつでも電話をかけたり取り次いでご家族などの連絡が取れるようにしている。本人への手紙や郵便物は直接手渡ししている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地良く過ごして頂ける様、温度、湿度管理を行い、定期的な換気などにも配慮をしている。季節感を取り入れた作品などを掲示することで共有空間の楽しみづくりに努めている。		共用空間では除湿器や空気清浄機が置かれクーラーも直接風が当たらないような配慮もされている。柿や栗の木、菜の花、ホームの菜園もあり四季折々の風景が窓より楽しめる。季節感の飾りもされ居心地よく過ごせる工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所づくりに配慮しながら思い思いに過ごせる環境づくりの工夫を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真などを持ち込まれ、その人らしく安心して過ごせるように配慮している。又、行動スペースを確保しながら安全面でも生活できるように努めている。		居室には馴染みの家具が持ち込まれていたり写真が飾られたりしている。視力不自由な利用者には自立支援も含めた動線の確保の工夫も行われ居心地よく過ごせる工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが混乱なく自分の力を活かせるよう安全な環境づくりを工夫している。			